巻頭特集

関手話サークル ひまわりの会

表情豊かに手話で伝える

関手話サークル ひまわりの会では、参加者全員が表情豊かに、身振り手振りも大きく手話で意思を伝え合います。週1度の定例会、バーベキューやクリスマスなどの催しを通じ障がいを持つ人、持たない人が交流を深めています。

聴覚障がい者と健常者 相互理解を深めるために

1973年、関市社会福祉協議会の認定を受けボランティアサークルとして登録された「関手話サークル ひまわりの会」。関市及び近郊で手話通訳やさまざまなボランティア活動を行ってきました。

会にはボランティアをしたいという志を持つ健常者の27人が会員として所属。毎週木曜日の夜、わかくさ・プラザ（総合福祉会館）で行う定例会には聴覚障がい者も参加しています。こうした手話サークルは、同会より規模は少ないながらも関市・美濃市に点在。さらに、各務原市ではより大人数で活動しているサークルもあります。

取材のため定例会に足を運ぶと、発表されたばかりの新元号「令和」を表す手話に取り組んでいました。その輪の中で、笑顔を見せるのが手話を始めて22年という鵜飼祐子会長です。小学生の頃、テレビドラマで偶然目にした手話の光景が忘れられず、高校生の時に本を用いて自己流で学びました。一時、手話から遠ざかっていたものの、子育てがひと段落した30代で再開。「もう一度、学びなおそう」と思い立ったところ、手話サークルの存在を知ったのです。

関手話サークル ひまわりの会
鵜飼祐子会長

ひまわりの会には現在27人が参加しています

同会は45年以上の歴史があり、長きにわたってボランティア活動に従事してきました。聴覚障がい者と健常者が共に理解を深め、支え、生きていく社会づくりに貢献しているのです。

豊かな表情と仕草で手話に感情をのせる

ボランティアで手話を覚え、さらに活動を続けることは並々ならぬ労力がいります。特に身近に聴覚障がい者がおらず、必要に駆られていない人であればなおさらです。「せっかく手話に興味を持ち始めてくれても、次第に続かなくなり、覚えた手話を忘れてしまう。すると、徐々に定例会にも足が遠のいてしまうんです。ですが、忘れてしまっても大丈夫」と鵜飼さん。忘れて、覚えてを繰り返して、継続して欲しいと訴えます。

さまざまな人と思いや感情を共有し、コミュニケーションをとっていくのが手話の喜び。そのため、正確な手話を覚えること以上に、時にはオーバーリアクションで相手に伝えるのも肝要です。

「たとえば痛いといっても強弱の度合いが違います。聴覚障がい者は手話だけでなく、相手の表情も見ています。表情で感情を伝えるのがとても大事なんです」

定例会で手話を行うのは、人前で恥ずかしがらず表情豊かに伝えるための訓練の一環。お腹が空いた、悲しい、うれしいといった感情を手話で伝え合うのです。さらに手話の上級者になれば、感情はもちろん、巧みに間を取って、相手の理解度を汲み取りながら進めていく人も。覚えた手の動きだけで何かを伝えるのではなく、まさに日常会話と同じ。表情、間の取り方、伝えたいという気持ちが、手話でも大事になるのです。

講演会では被災時の対応や支援を学ぶ

同会では、参加者に楽しんでもらえるよう努めています。指文字でしりとりをするなど、定例会は聴覚障がい者と会員の交流の場と位置づけ、それ以外にも10月のバーベキュー、12月にはミニクリスマスなど屋外に飛び出してのイベントも企画。みんなで食事を囲み、リラックスした雰囲気で手話による交流を深めるのです。

また、各種講演会や地域行事にも参加。事前に参加者から「手話まつりで自分たちの店を出したい」といった希望が出た場合、会員がサポート。聴覚障がい者を支えるというスタンスは崩しません。

また、たびたび講演会に参加し、被災時の問題について聴講。災害時の対応について、「自分が住む地域に手話ができる人がいるとは限りません。しかし、助けを求められるように、普段から孤立しないよう迎え入れてあげてほしい」と鵜飼会長は力を込めます。

過去、同会の最盛期は40人の会員がいましたが、今はどこの地域もボランティアサークルは会員数が減少傾向。しかし、長く続いたサークルの灯を絶やさないよう懸命に活動を続けます。手話に少しでも興味を持ったなら、参加して交流の輪を広げてみてはいかがでしょう。

手話で大切なのは、相手に伝えようという気持ち。大げさなくらい豊かな表情と仕草をした方が伝わります

会の活動が認められ、一昨年、厚生労働大臣から表彰されました

関手話サークル ひまわりの会

［定例会］毎週木曜 19:30〜21:00
※自由参加
［場所］わかくさ・プラザ 総合福祉会館
［問い合わせ］0575-22-0372
（関市社会福祉協議会）
見学だけでも可
事前に要問い合わせ

関手話サークル ひまわりの会は、毎週定例会を開催。聴覚障がい者、健常者が一緒になって、手話を通じたコミュニケーションを行っています

その他のサークル

美濃手話サークル　うだつ
［定例会］
昼の部 毎週月曜 11:00〜12:00
夜の部 毎週水曜 20:00〜21:00
※祝日、悪天候時は休み
［場所］美濃市福祉会館2階 ボランティア室
［問い合わせ］
g_m_d@softbank.ne.jp（会長・東山康治）
事前連絡不要
活動日時に気軽に見学、体験に来てください

中途失聴・難聴者手話サークル きりぎりすの会
［定例会］
毎週水曜 19:30〜21:30
［場所］
わかくさ・プラザ 総合福祉会館2階
ボランティア研究室
［問い合わせ］
☎0575-23-3229　FAX0575-23-6863
（関市ボランティアセンター）

手話サークル いるかの会
［定例会］
毎週水曜 10:00〜12:00
［場所］
わかくさ・プラザ 総合福祉会館1階
ボランティア活動室
［問い合わせ］
☎0575-25-0725（代表・玉井洋輔）
事前に要電話連絡

文／南部武寛　撮影／OFFICE FUJITA　デザイン／chica